

○ 教科書の「枕草子」(P32～P33)を読んで、気付いたことや考えたことを家の人に伝えよう。
(2週継続) もちろん取組シートでもノートでも構いません。

- ① 「枕草子」(教科書上段の古文)を繰り返し音読する。
 - ・ すらすら読めるようになるまで読む！
 - ※ 札幌市教育委員会からは「10回程度」と書いていますが、すらすら読めるようになるまで音読をしましょう。
 - ※ 「家の人に聞いてもらう」のは客観的な評価が大切だからです。できる限り、自分で「できる」と思うだけでなく、「できているね」と評価されるように頑張りましょう。
 - ※ 休み明けに【暗唱】を行う可能性が高いです。しっかりと練習しましょう。

- ② 現代語訳を見ながら、わからない言葉の意味を確認する。
 - ・ 例にも書いてある通りです。
あけぼの……明け方、やうやう……だんだんと、あかりで……明るくなって などと確認をしていきます。
 - ・ ノートの下に書き出していくと良いかもしれません。また、教科書を見てわからないものは、辞書やインターネットを使って調べるのも構いません。
 - ・ 調べてもどうしてもわからないものは、メモを残しておきましょう。

- ③ 作者が挙げている四季それぞれの好きな時間帯とその理由の中から、共感できた(自分もそう思う)ことや、なるほどと思ったことなど、特に印象に残った点について、理由を添えて書き出す。そして、それを家の人に伝える。
 - ・ まずはどの季節の時間帯について、清少納言に共感したか、あるいは印象に残ったか、変だな、変わっているなどと思ったことを書く。(例：春の明け方、夏の夜 など)
 - ・ その後、清少納言の理由の説明について、興味深い、印象に残った、変だなと思ったところを書く。(例：紫がかった雲が細くたなびいているのは風情がある など。)
 - ・ さらに、自分が清少納言に共感した、なるほどなどと思った理由について書く。(例：私も朝早く起きたときに、窓の外を見て、きれいだなと思ったことがあるため共感できたなど。)